

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん		
所在地	小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	令和 2 年 5 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々が気軽に出入りしやすいような、玄関先やロビーなどの雰囲気作りを大切にしています。自然環境に恵まれた中で、その時々季節を感じ その人らしさを大切に 安心して生活出来る楽しみ事を中心にした介護を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100762-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】 家族等の代表や市職員、民生委員等が参加して定期的に行われて

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年7月15日

事業所の前は広い田んぼが広がり春と秋の違った風を感じられる環境の中、職員は利用者により優しい気持ちでゆったりと寄り添い理念に基づいた支援をしている。事業所に芸能ボランティアが来るときは近隣住民を招待し共に楽しみ、事業所の防災訓練には近隣住民も参加し協力する等地域に密着した事業所と言える。事業所の広い玄関には脱穀機や臼、杵、観葉植物が飾られ利用者はもとより訪問者も足を止め穏やかな時間を過ごせる空間となっている。運営母体は病院で24時間緊急対応している他、小規模多機能型施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設を運営しており利用者の健康状態に応じて医療や介護を適切に提供できる環境が整備されている為、利用者や家族等の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念作成して 各ユニットごとに見やすい場所に掲示し 更なる実践につなげている	理念にあるように、地域の方々とのふれあいを大切にし、利用者によさしく常に笑顔で共に日々過ごせるよう努めている。理念は玄関やユニットなど職員の目に付くところに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とのつながり 交流を大切にしている 行事や消防訓練等への参加も参加してもらえるようになってきている	地区の清掃作業(クリーン作戦)に職員2名が年2回参加している。作業中に地域住民と交流しながら施設の様子や空き状況などを伝えている。管理者が事業所のイベントへの招待のため近隣住宅を回ってお知らせを手渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣への外出や買い物などで認知症の方たちへの理解を深めてもらい利用するにあたって協力も得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの開催で、利用状況や活動状況への取り組みを報告しそこでの意見や話し合いで出た結果をサービスに活かしている	家族等の代表や市職員、民生委員等が参加して定期的に開催されている。行政から感染症対策等の話があり参考にしたり、車いす対応の車輛での外出についての話し合いがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話だったり会議の前の時間などを利用して相談をかけています。気軽に話ができる関係づくりを築けるよう取り組んでいる	運営推進会議の際に情報交換をし、協力関係を築いている。市職員には、生活保護受給者の情報交換や分からないこと、困りごとなどを相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けての会議を職員や管理者などで定期的実施している。身体拘束の弊害を認識し共通の意識を持つようにしている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度開催しているが、参加者が固定されており、全職員が関わったり、勉強会等に参加するまでには至っていない。やむを得ず身体拘束を行う際には記録を残し、検討を行っている。	身体拘束に関する研修を、職員全体研修も含め実施することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない。施設内での虐待もまた、見過ごされることのないよう徹底し防止に、努めている。研修への参加ができていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には 制度の内容についてことあるごとに説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な時間と契約書に添っての説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由ノート、意見箱を玄関横に設け 意見・要望など気が付いた点を気軽に記入してもらえるよう 面会等に声掛けしている	苦情相談受付窓口等については契約時に書面で示し説明をしている。管理者と職員は、面会時には家族等と必ず話しをし、意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などを気軽に話が出来ようこちらからの声掛けや機会を作るようにしている	管理者と職員は普段から何でも話せる関係が築かれているとともに、必要に応じて、1対1で個別に場所を変えて話し合える機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院側で全て行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の研修を受講できるよう人員のやりくりをし 介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や他職種の方との勉強会や交流などを通じて向上へとつながる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない所での生活の不安は、想像以上のものかと思われます。心配事や要望に耳を傾け信頼関係が築かれるよう努力している 情報提供書や家族などから直接情報を得るようにしている(趣味・好物・職業)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約は、時間を多く設け丁寧に説明をしています。家族からの要望・困りごとなどをよく聞き何かあれば気軽に話してもらえる雰囲気作りを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や職員の研修を受講できるよう人員のやりくりをし 介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は 本人と苦楽を共にし、一緒に暮らし支え合いながら関係を深めていけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、気軽に面会に来てもらえるよう働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや友人たちの面会場所との関係が継続出来るよう支援している	入居時の聴き取りや家族等からの情報、日々の会話の中から把握し、アセスメントシートに記載している。利用者の希望を家族等に伝えて、外食や外泊等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士、ひとり一人が孤立せずとこところに長椅子を置き話やようにしている。職員も気軽に声掛けでき、相談できる場所作りとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、今までと変わらず 電話や近くに来た際には、立ち寄ってもらえるような関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方と 外出や外出に出たり、居室でのんびり語り合う方と過ごし方は、様々である。	入居時の聴き取りで分かった事を記録に残し、日々のケアを通じて知り得たことも職員で共有して本人の希望や要望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや 生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書などから把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方 心身の健康状態 有する力などの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や本人、家族とで意見交換し本人の望む暮らしとなるよう 介護計画を作成している	家族等や本人の意向を基に、医療依存度や状況に応じて医療関係者の意見を聴き、計画を作成している。毎月モニタリングを行い、目標に沿った支援ができているかを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを ケース記録に記入し 職員間でこの情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き 必要に応じて支援やサービスの機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々、小中高生、ボランティアなどと協力し合いながら安全でその人らしい穏やかな生活が出来るよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に 今まで同様のかかりつけ医の受診が受けられる様支援しています	協力医療機関へ2週間に1回送迎車で通院支援をしている。それ以外のかかりつけ医へは家族等が付き添っている。受診の際状況を口頭で伝えているが特に変化がある場合にはメモで伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で 情報や気づき、状態の変化など外来受診時や訪問看護師に伝え相談している 利用者の方が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にとり安心して治療が受けられる様病院側との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方と十分な話し合いを行い説明している	終末期のケアについて事業所としてどこまで行えるかを、入居時に説明し、同意を得ている。協力医療機関とは24時間連携して対応している。状況に応じて説明を行い、家族等や本人の意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は 初期対応や場合によっては応急処置がとれるよう訓練を入れ実践につなげている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している（夜間体制・地震災害訓練）近隣の方々の参加もあり地域との協力体制を今後も大切に続けていきます	夜間や地震を想定した避難訓練を行っている。防災頭巾をバスタオルで作ってユニットに準備したり、避難した利用者の部屋にタオルをかけて避難したことが即座に分かるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆったりとした時間の中で、ひとり一人の人格を傷つけない言葉かけの気を付け対応している	管理者や職員は、言葉遣いに配慮をするようにしている。事務手続きなどで必要な個人情報と写真の利用、記録の開示の同意書と一緒にっていて、要求すれば他の利用者の情報のどんな書類でも見られる同意書となっている。	利用者本人の個人情報は事業所として同意を得なければならないが、記録の開示の提供は削除し、肖像権に関しては広報紙や事業所内の掲示など選択できる同意書にすることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれが自分の思いや希望を表すことが出来るよう、時間をゆっくり取り せかすことなく待つことの大切さを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し 入居者のペースに添って見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋さんが入っています ヘアスタイルも服装も好みのものとなっているおしゃれを楽しめるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒ににしたり 毎日の献立表も見やすい所に掲示している ご近所さんからの野菜の頂きものをみんなで下ごしらえし 食事が楽しいものとなるよう工夫している	おやつ作りなどを楽しんでいる。あんこなどを利用者の好みに応じて作っている。 職員は介助しながら利用者と同じメニューを食べている。行事食は利用者の好きなものを準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表や食事・水分表などにて記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがい、歯磨きを行っています できない方への声掛け介助が入っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつをしない方向を目標にしている 排泄パターン 定時でのトイレ誘導や兆候を見逃さないよう見守るとともに 自立に向けての支援をしている	利用者の排泄の時間を把握して誘導し、トイレでの排泄を心地よく感じてもらい、自立支援をしている。こまめなトイレ誘導で気持ちよく過ごしてもらい、トイレでの排泄へと状況改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して 水分量 食事の工夫や便器に座ってもらうことを習慣づけていく 場合によっては 下剤を使用することもあります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は 職員の都合になっている 体調が悪かったり、外出で入れない場合は、翌日の入浴となるよう配慮している	入浴は基本週2回午前中としているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。入浴剤を使用したり、季節を感じるためにゆず湯などを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムづくりでボール投げやラジオ体操、散歩など活動の場を設けている 少しの時間ではあるが 午睡タイムで気分良く寝られる様支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートは 事務所でいつでも見ることが出来る薬の目的や用法・用量についても理解し服薬の支援と症状の変化にも注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族などから昔の事を聞いたりして その人が生き生きと喜びのある生活が出来るよう引き出している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会時には なるべく一緒に出掛けられる様普段から家族の方と連絡を取るようになっている	事業所の前は田んぼで、広い事業所敷地の散歩をしながら春と秋では風が違って感じる事ができる環境にある。職員や家族とスーパーや100均に買い物に出かけている。季節の花見や愛宕山に行事として出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は 本人の希望や力量に応じて行っている 職員は 買物する楽しさ レジでの精算などがいかに大切かを理解し買い物や出かける機会も増えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は自由に使うことができる年賀状や友人への手紙の投函や各棟の固定電話の取次ぎや掛けるときの支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースもゆったりとした雰囲気作りとなっている 玄関フロアには 懐かしい杵やうすなどを置き心穏やかに居心地よく過ごせるよう工夫している	事業所全体がバリアフリーになっていて、清掃も行き届き匂いもなくすっきりしている。広い玄関には昔の脱穀機や餅つきの臼や杵等昔懐かしい道具が観葉植物などと一緒に配置され、懐かしく、心地よい空間で寛ぐことができる。居間兼食堂には小上がりの畳スペースと長椅子が設置されていて利用者が寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーや玄関先に長椅子やベンチ、テーブルを置いている 他の方々との交流もあり自由に過ごせる時間、居場所づくりの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のあるものだったり、近所の商店のカレンダーを居室に飾ったりして安心して暮らせるように居室に配慮をしている	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテンが備え付けられている。利用者は好みの物を自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたむ人 テーブル拭き ゴミ箱折などそれぞれが出来ることへの出番、楽しみ事を見出している		

(別紙4(2))

目標達成計画

所名 グループホーム もくれん

作成日 令和 2 年 8 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号		目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束に関する研修を参加者が固定しており、全員での参加ができていない	身体拘束に関する研修を 職員全体研修も含め実施できるようにする	固定した研修への参加をシフトなどを考えながら全員が参加できるようにしていく	6ヶ月
2	36	個人情報と写真の開示が一緒になっている。要求すればどんな書類でも見られる同意書となっている	広報誌や事業所内の掲示など選択できる同意書を作成している	記録の開示の提供は、すぐに削除し肖像権に関しては、広報誌や事業所内の掲示など選択できる同意書をします	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。